

令和7年度第1回徳島市立考古資料館協議会抄録

- I 日 時 令和7年10月3日（金）10：30～12：00
- II 場 所 徳島市立考古資料館 研修室
- III 出席者 協 議 会 菅原会長、安西委員、蔭山委員、板東委員、山口委員、
湯浅委員
教育委員会 岡田課長、北村課長補佐、平山管理係長、吉岡主査、
島本主事、西本主査
考古資料館 三輪館長、倉佐事務長、村田主任学芸員、大栗学芸員

IV 内 容

- 1 市民憲章唱和
- 2 あいさつ（松本教育長）
- 3 自己紹介
- 4 会長、副会長選任

互選により、菅原委員が会長に、須藤委員（当日欠席）が副会長に選出されました。

5 新会長あいさつ（菅原会長）

6 議題

- (1) 令和7年度 徳島市立考古資料館事業計画（資料1）
- (2) 令和7年度 徳島市立考古資料館主要事業概要報告（資料2）
ー令和7年4月1日から令和7年9月30日までー
- (3) その他

V 主なご意見

令和7年度徳島市立考古資料館事業計画等に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

（◇＝委員のご意見 ◎＝考古資料館・社会教育課の回答）

- ◇ 資料館とは創設時の資料館検討委員から始まり30年近くかかわっております。私は石井町の文化財保護審議会にも携わっているのですが、審議会では最近市民町民に親しみを持ってもらう、そして地域のアイデンティティーに根差す文化財の活用法について重点を置いています。石井町で言えば「藍」があり、藍屋敷、藍染師などの有形無形の文化財を文化庁などとも協議しつつ、藍染文化の今後の発展や地域活性化と絡めて活用するよう行動しています。また藍とともに前山、気延山の古墳群等の古代文化を二本の柱に据え、推していこうと計画しています。その流れで言えば県の埋蔵文化財センターが所蔵している矢野銅鐸、観音寺・敷地遺跡木簡、矢野遺跡縄文土器が国指定の重要文化財に登録されるなど、国府周辺はクローズアップされているわけで、宮谷古墳等の気延山古墳群も今後国史跡として指定を受ける可能性も高く、山のふもとにある考古資料館の意義もより深くなると思われます。現在講座や体験学習など多数のイベントを抱えており職員はオーバーワークであるとは思いますが、文化施設としての原点に戻り調査研究など文化・学術的な活動にワークバランスを割いていただければと思います。

- ◇ 前回の協議会で意見の出たアンケートの項目についてですが、前回企画の評価として「良い」～「悪い」の選択では「良い」に偏重して企画の評価としては適さないのではとの指摘があり、7年度では「企画の理解度」を指標にしたのだと思いますが、アンケートを取ってみてどのような効果、受け取り方がありましたか。
- ◎ 講座や学習会については参加者のほぼ全員がアンケートに回答してくれていて、分析内容から見える傾向も昨年度のアンケートと大きな違いはありません。6年度冬季企画展についてはいろいろと考え、聞き取り調査が最も適しているとなったのですが、マンパワーや来館者への負担を考えると難しいとの結論となり、これまで通りの「良し悪し」の項となりました。ただ、せっかく委員から提言を頂いたのにまるっきり同じではもったいないと考え、アンケート参加者の世代を細かく分けることにしました。その結果、今年度夏季企画展「戦争の記憶 - 考古資料が語る戦争 -」ではやはり戦争がテーマなせいか、世代によって企画の受け取り方が異なる傾向が見えてきましたが、まだ分析途中なので追って報告したいと思います。委員の指摘に応えるには遠いですが、現状では以上となります。
- ◇ アンケート方法はまだ試行錯誤中ということでしょうか。
- ◎ はい。
- ◇ 気延山の国指定史跡に向けての動きですが、新聞でも取り上げられていましたが、徳島市でもそれに関する話はあるのでしょうか。
- ◎ 県がレーザーを使った航空測量で地形測量を行って、気延山の地形図を作成しています。今後評価分析を行い、それらをもとに現地調査を共同で行う予定ですが、全体の展望ができるほど話が進んでいるわけではありません。
- ◇ 今後、県と市、石井町との三者で国指定史跡を目指し調査を進めていくことになると思うのですが、その中で資料館が担う役割などは想定していますか。
- ◎ 委員の皆様はじめ関係者に声をかけてなるべく多くの人に協力してもらえるような体制にしたいと考えていて、資料館職員にも積極的に参加していただければと思います。また調査成果の展示発表等の場として資料館を活用できればとも考えています。
- ◇ 以前資料館の調査研究のテーマとして気延山を取り上げていたと思うのですが、その調査から何か意見はありますか。
- ◎ 気延山の尾根等の踏破調査を行ったのですが、石井町側で積石塚らしき遺構はいくつか見つかったのですが、徳島市側では目立った遺跡らしきものは見つけれませんでした。また先に話のありました測量図の一部ですがインターネット上に公開されており、100cm 間隔の等高線で見ると徳島市側には現在確認されている古墳以外に墳丘らしき高まりは無いように思います。たださらに精度の高い赤色立体図ができればまた評価も変わると思いますし、それらしい場所があれば資料館は間近ですので実際

に赴き確認するなどして、立地を生かした協力ができればと思います。

- ◇ ずいぶんと以前になりますが国分尼寺跡と国分寺跡のあるこの辺りに当時流行っていた「風土記の丘」をつくる構想がありました。結局計画は流れて 20 年後に資料館ができたのですが、やはり徳島市の文化財担当も気延山を主体とした大きな枠組みを作ろうとしていたのだと思います。国指定を進めるにあたり現在も人手不足で思うようには進まないのですが、とりあえず山ノ神古墳を石井町の史跡とし、いずれは県指定にあげ弾みにしたいと考えています。そういった構想のなかで情報発信するにあたり資料館は中核となる施設なわけで以前から話しているように専門性を発揮するような事業計画を市教委と連携しながら計画していただければと思います。
- ◇ 夏休みの自由研究「本気の弥生土器づくり」についてですが、6 年度に同じ企画を行ったときに比べ、大きく参加者数を減らしているのですが、これは日程や広報の問題なのか、それともほかに理由があるのでしょうか。
- ◎ 参加者数が激減した原因については日取りが関係しているのではと考えていますが、それが正解かどうかは我々にも判断できないのが現状です。まず広報については 6 年度と同様でした。日程については今年度全 4 回のうち 2 回を 6 年度より後に設定、6 年度はお盆休み最中の日程にしたのですが、今年度はお盆より後の 8 月後半としました。私は出来上がった土器を夏休みの宿題として提出する子どもが多いのだろうと思っていますが、保護者の方から何うに最近の学校では二学期の初めに提出するのではなく、盆前の途中登校日に提出だとか。そのため盆明け以降の焼き上がりでは間に合わない判断した子供がいたのかもしれない。また盆休みの最中が保護者には都合がよかったのかもしれない。
- ◇ 6 年度と同企画もアンケートを取っていると思うのですが日程についてのリクエスト等の意見等はありませんでしたか。
- ◎ 日程についての意見はありませんでした。6・7 年度ともに全 4 回にわたって行われる講座で、公共交通機関での来館に難がある当館の場合、送迎に関し保護者への負担はそれなりに大きいと思われそうですが、その点についての不満の意見もなく、4 回にわけて講座を行うことの意義を理解する旨のアンケートもありました。
- ◇ 「本気の弥生土器づくり」の対象が小学 4 年生から中学 3 年とありますが実際に受講したのはどの年代でしたか。
- ◎ 6 年度は小 4 から中学生までの幅広い学齢の子供たちが参加してくれましたが、今年度は小学 4 年生の子どもたちだけの参加に留まりました。
- ◇ 本格的な土器づくりでかつひと月にわたる 4 回の講座となるとある程度熱意がないと参加は躊躇うかもしれません。講座の趣旨を正しく伝えるためにも学校への働き掛けが必要だと思います。

◇ 「本気の弥生土器づくり」自体はずいぶんとおもしろそうな企画だと思いますし、学習効果も高いと感じるので、参加者が少ないのは勿体ないように思います。夏休み中の登校日の件ですが、学校によっても異なるのですが20日ごろに1回ほど登校日が設定されており、その時にその時点でできている宿題を提出するようです。ただ各学校によっても違いますし、9月に入って宿題を提出しても問題はないと思います。学校での資料館事業の周知についてですが校長会などで市教委から通知がありましたが、個別の事業について児童への周知ができているとは言えないと思います。

◇ 面白そうな企画であっても子供たちが興味を抱くかはまた別の問題だろうと思います。資料館の展示を見ても資料はたくさん並んでいて子供たちの興味を引くものもあるはずですが、キャプションの内容が難しかったりして関心が途切れるようなこともあるのではと感じました。

また校長会で啓発やチラシの配布を行っていただいているようですが、それ以外に地域の小中学校に直接訪問してみてもいかがでしょうか。例えば事業計画にある「渋野古墳群〇×クイズウォーク」なら近くの渋野小学校、徳島城博物館で行われる「レキシ・フォト・トクシマ」でしたら徳島中学などで広報啓発すればより効果的なのではないでしょうか。徳島城庭園は小中学生は有料でしたか。

◎ 今回の「レキシ・フォト・トクシマ」に関しては徳島城博物館の協力で参加者の入館料は無料になっています。

◇ そういった点もセールスポイントになると思うのでチラシに書き込むと良いと思います。徳島城博物館といえば職場体験で中学生が何うことがあるのですが、やはり小中学生の場合、交通の都合により選択の範囲が決まります。資料館もそういったイベントの地域性を考えて広報するとより効果的であるように感じます。

出前授業についてですが夏季企画展「戦争の記憶」で徳島大空襲を取り上げていましたが、それらをテーマに特化した出前授業があれば平和学習の一環として学校サイドの需要も多いと思いますし、それを契機に資料館の意義も深まるのではないのでしょうか。

弥生土器づくりについてですが、中学校でも有志が集まり土器づくりを行ったのですが、うまくはいかなかったみたいです。資料館で作ればよかったのかもしれませんが、夏休みは部活動などで忙しく、また3年生になれば受験などが控えていたりして、たとえ興味があってもなかなか時間がつくれないのが中学生の実情である気がします。また高学年になると親と行動することを厭う子も多く、その点でも中1ぐらいが一番参加する可能性が高いと思います。また中1辺りで縄文・弥生時代を学ぶため関心を持つ子も多いと感じます。情報発信についてですが今の中学生あたりだと自宅で新聞を取っていない家庭も多く、広報とくしまで情報を得ることも多くはないかもしれません。

バス助成の利用が少ないとのことですが、子供たちからお金を徴収せずに済むとなれば利用に弾みがつくようにも思いますが、全額補助は難しいのでしょうか。

◇ 婦人会も高齢化がすすみ、どこかに集まるにしてもバイク、自転車等は危険で止められ、また免許の返納などで、交通手段が限られてしまうのが現状です。子ども対象

のバス助成ではありますが広く弾力的に運用を考えていただければと思います。

- ◇ 最近学校と家庭間の連絡用アプリとして「すぐる」の運用が始まりましたが、もし使用のガイドラインに抵触しないのであれば市教委からの通知として資料館のイベント情報をアプリを通じて流せば、チラシと違って捨てられることなく確実に保護者のもとに情報が伝わるので周知の方法としては優れていると思います。
- ◇ 屋外での作業は熱中症対策を重視してください。特に土日イベントがあることが多いので医療機関との連携体制を考えていただければと思います。
講座についてですが埋蔵文化財センターでも今年度から資料館と同様なアラカルト講座が始まりましたが影響はありますか、また対策は必要でしょうか。
(※ 欠席委員からのメールでのご意見)
- ◎ 資料館講座の参加者数ですが、安定して多くの方に参加していただいています。また日程的にも埋文センター講座と被る日もありますが、今のところ大きな影響はないと考えています。
- ◇ 戦争の記憶展は継承という点で評価できる企画展でした。特に「音」の展示はインパクトがあり、よかったです。
(※ 欠席委員からのメールでのご意見)